

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	平成23年11月22日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号
訪問調査日	平成23年12月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域と共に家庭的な雰囲気の中で、気軽に立ち寄って頂ける事業所を目指し、頑張ってきました。建物の横にある慈愛畑の土壌作りでは地域、家族様のボランティアを受け、季節の野菜が見事に育っています。地域の方から種物や新鮮な旬の野菜を届けて下さったり、季節の花々を玄関に生けて頂いたり「近くまで来たから。」とホームに立ち寄り、利用者様とお喋りをしたりと、良い関係作りが出来ています。利用者様と職員が共に笑い、感動する姿は開設2年目の今も変わらず、利用者様を尊敬しつつ、家族の様に過ごしています。「施設を見学させて下さい、お話を聞かせて下さい」の声も増えてきました。「ここで生活出来て幸せ！ここで生活してもらえれば安心！」の言葉が職員の意欲に繋がっています。今後も信頼関係を築きながら、地域に愛されるホームを目指し、頑張っていくと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム理念である3項目「文化活動・健康づくり・社会参加活動」の実践に、その日の過ごし方を毎朝検討し、「楽しかった！嬉しかった！美味しかった！」と入居者のその一瞬を視点としたケアは笑顔を引き出し、趣味の短歌を興じたり、入居者同士の触発しあった生活が活性化したりするグループホームケアの良さを発揮している。開設2年であるが、地域に密着したホーム作りに社会資源や地域住民等との相互交流、地域の一員としての一日一汗活動への参加等による啓発等が行き届き、近隣住民も気軽に立ち寄られる等基盤作りへの成果が如実に表れている。特に今年度は防災対策に隣保班の家庭へ一軒一軒回って協力をお願いする等危機意識も高く、職員のケア力の高さは立位訓練により徒歩に繋げた事等に表れている。家族との信頼関係は強固であり、在宅高齢者の相談等も寄せられる等地域からも期待されたホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務室内、ホール内に掲示し、業務前に意識づけを行い、実践につなげている。	法人理念を基本として、ホーム独自にグループリビング・共生の生活づくりを基本に「文化活動・健康づくり・社会参加活動」を掲げ、毎朝、理念に基づきその日の過ごし方を決定している。法人全体の経営方針・基本方針・介護理念等も職員規範として活かし、毎月全職員で理念に即した行事計画を立てる等理念をプランに反映させ、入居者の日常生活の活性化に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の地域福祉事業や地域行事にも参加している。またホーム行事の案内をし、近隣地域の方との交流を深め、散歩時には近所の方との会話を楽しんでいる。	理念の一つである社会参加活動に地域との交流促進として、公民館で行われる「たっしやか会」への毎月の参加や地区の夏祭り・運動会・どんどや等に参加し、ホームの行事(そうめん流し・敬老会・防災訓練等)には近隣住民の参加等相互交流に取り組んでいる。また、自治会に加入し、地区の一日一汗運動(公民館の掃除や草取り等)に参加する等地域の一員としての活動により啓発が浸透し、地域住民の中にはホーム玄関先に自主的に花を生けたり、散歩時の声かけも今では名前呼びかけてくださる等地元住民との関係が構築したことが窺われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流を目的としたホーム行事や地域の行事に参加する事を通して、認知症の人を理解して頂く機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの提供報告やホームの運営に関する相談等を行っている。ホーム行事(敬老会やそうめん流し等)や防災協力体制、地域行事の協力が得られた。	行政・包括支援センター・区長・家族代表・入居者代表等の参加により隔月に開催する運営推進会議は2ヶ月間の資料を作成し報告している。地域動向のリサーチや行事計画を発信する機会として活かされボランティアとしての訪問や地域の中での生活拡充に繋げている。昨年度の外部評価結果課題改善に全員で検討し改善に繋げ、防災面でも繰り返し話し合うなど有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やその都度、グループホームからの相談事や地域福祉に関して情報交換を行っている。	役場支所が近くにある立地条件を活かし散歩時に広報誌配布に出向き、運営推進会議でのアドバイスや不明な点は些細なこと(病院受診や職員の勤務体制等)でも相談し適切なアドバイスを得ている。包括支援センター開催の研修会への参加や包括支援センターからの入居相談や在宅困難者等地域の中での高齢者問題を共に話し合う等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を開放している。研修会、勉強会にも積極的に参加、身体拘束についての理解、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	“身体拘束ゼロ宣言”をしたホームでは法人の拘束廃止委員会での研修や事例検討等行ったり、外部研修に参加している。管理者は人生の大先輩としての言葉使いや無視しないケアに、心を引き締め意識を持つように指導している。外出傾向や帰宅願望等個々の状態を把握し、傾聴や寄り添いのケアに取組み、居室をプライベートスペースであると認識した入居者は夜間は内鍵を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、理解を深め、虐待防止徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業の利用者様は入居されていないが、勉強会に参加し、知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用料金、入退居の条件等十分な説明を行い、ご家族の相談を聴き、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見にも耳を傾けている。家族会を年2回実施し、家族様からの意見、要望が聞かれ、それらを運営に反映させている。面会時にも話を聴くように心掛けている。	入居者には日常のコミュニケーションの中から要望等を引き出している。家族には訪問時に意見や要望を聞き取り、ケアサービスに反映させている。家族会(年2回)での質問事項である行事や外出等の取組み状況確認し年間行事予定の周知を図り、家族同士の連絡票を作成し、行事時のボランティアを依頼している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会で職員全員の意見や、提案を聴き、改善されている。	毎月の勉強会、ミニカンファレンス、日々の職員とのコミュニケーションにより随時職員の意見や要望を聞き、日常業務の流れを見直す等職員の提案を反映させている。職員の提案に基づいた話し合いや、勤務体制も全員で検討しており、働きやすい職場環境が離職防止となり、管理者は職員の表情等にも気を配り、悩みや疑問にその都度対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて勤務時間の配慮を行い、働き易くされている。行事時は人員を増やす等、職員の負担にならないような配慮もされている。勤務内容や休憩時間等も職員間で幾度も検討し、働き易い職場環境に整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内、県外を問わず、研修会には積極的に参加している。法人内でも月1回の勉強会が行なわれているので、夜勤者を除いた職員が積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、研修の中での交流や視察研修等を行いながら、互いに良いところを取り入れ、サービスの質を向上し合っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、本人様の希望、要望をうかがい、納得の上で、入居して頂いている。良い関係作りをする為に、家族様へ生活歴、趣味等の記入をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、家族様の希望、要望をうかがっている。担当ケアマネジャーからの情報も聴き、ホームに対する不安が排除出来るような関係作りから始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの機能を説明し、家族様、本人様の希望をうかがったり、担当ケアマネジャー等の助言をいただいたりして、サービスの対応策を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意思を尊重し、やりたい事、出来る事を見守り、出来ない事が出来るようになる為に、一緒に行っている。積極的に作業されている姿が多々見受けられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡を密に取り、生活状況、心身の様子等を家族様に伝えている。行事への参加を呼び掛け、本人様、家族様との時間が保てる様、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域等の行事には積極的に参加している。会話の中に出てきた場所や人名を見極め、個別ケアしている。	入居者の会話の中に自宅や知人等の名前や「仏様参りがしたい」等が出ると、家族に思いを代弁し出かけたり、知人・友人の訪問等につなげている。自宅へ帰ってみたり、地域行事への参加や初詣、地藏尊等に出かけ、半夏生団子等伝承や慣習等も継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。ホールで過ごす時間が長い為、利用者様同士の関わりが多く持て、良い関係が保たれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態を把握し、必要に応じて本人様、家族様の相談に応じている。行事等の参加を呼び掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様からの会話から希望、要望が出た場合は実践しているが、困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談し、その都度対応している。	日常のかかわりの中で思いを引き出し、訴えることが困難な方にも表情や観察によりサインを見逃さないようにしたケアを実践している。意思疎通困難な方にもジェスチャーで伝え、行動・言動を推察し、全職員での検討や家族に代弁し、本人の思いになるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族様、外部から面会に来られた時等、会話の中での情報を収集し、日頃のサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の意見を取り入れ、介護計画作成者が介護計画を作成している。状態の変化に伴い、モニタリングを行いながら作成しているが、これで良いのかと言った不安はある。	入居決定時入居者を深く理解し日々を楽しく過ごすことを目的に“個別特性シート”を活用し、生活歴や趣味、嗜好・エピソードや一日の生活の流れ等家族に記載してもらい、短い期間の目標をたて、本人を知る期間としている。入居後1ヶ月後のモニタリング、以降は3ヵ月毎にモニタリングを行い、達成度を見極めている。ケアマネジャー3名がプラン作成にあたり、心身の状況変化や退院後等には職員の意見をもとに見直している。	詳細なサービス内容であり、ケアに直結するプランが作成されている。現在センター方式を全員で勉強中であり、今後も職員の日々の個別記録を活かしたプラン作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。見直しについては、日々の状態を申し送りで行なうが、プランの中に、まだまだ反映する事が出来ていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方が急きよ、通院介助が出来なくなった場合などは、希望に応じて柔軟に対応している。外泊、外出の際には、本人様、家族様が満足出来る様に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域の消防団、駐在所との情報交換が出来、支援体制の構築が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態変化時は、かかりつけ医へ連絡、報告し、受診している。場合によってはかかりつけ医との情報交換も行っている。	入居時に希望のかかりつけ医を支援することを説明しているが、緊急時対応の面から母体医療機関に変更される方が殆どであり、年一回の健康診断や緊急時の往診支援が行われている。毎日のバイタルや職員の観察により異常の早期発見に努め、変化があればかかりつけ医に連絡を行い、支持を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に状態を報告し、助言、指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるようにしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族様に、回復状況の確認や情報をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくると困難な為、現状では出来ない事を入居前に説明を行っている。重度化しつつある場合は早い段階で家族様に状態、状況を説明し、方針を理解していただいている。	現時点ではホームに出来る範囲で対応し、ターミナル支援は行われておらず、医療行為が必要になった時点を退去の目安としている。入居申し込み時にホームと併せ母体介護施設も申し込んでもらいこれから先の介護の安心としている。職員は今後も共に過ごす入居者にホームに出来る支援に誠意を持って携わっていきたくと語っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急処置のマニュアルを作成し、勉強している。また、研修などにも積極的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、年2回は防災訓練を行っている。訓練時には近隣の方にも案内を出し、協力を求め、地域放送もしていただいている。地域の方と密に連携をとり、防災訓練を行っている。	地域放送や近隣の方への訓練案内を行い、昼想定防災訓練が実施され、訓練では駐在所員・地域の方々による誘導が行われた。その他夜間想定自主訓練や非常呼び出し訓練も行っている。自動通報装置・スプリンクラーの設置や非常用ラジオや備蓄、火災以外(地震・風水害)の対応マニュアルも作成している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を念頭に置き、人格を把握、尊重し、言葉かけやプライバシー保護には、十分に気をつけ個別ケアに努めている。	人生の先輩である入居者への対応については介護理念にも謳われており、尊厳やプライバシーに配慮することを職員が心に留めケアにあたっている。入室時は声かけやノックを行い、呼称は基本的に苗字としているが、希望される呼び方を確認している。管理者は自分が嫌な事は他者も嫌であり、配慮ある対応に努める事を日頃より指導している。プライバシーに配慮したトイレ介助や家族面会記録も確認された。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が意思表示しやすい様な雰囲気作りを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の利用者様の状態に応じて、動いているが、行事の日は集団での歩調、行事の時間に合わせて行動して頂く事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう、支援している。好みの衣装を把握し、一緒に準備したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに好みの物や旬の物を取り入れたり、皆で一緒に作れる物(餃子、お好み焼き等)を提供している。利用者様が菜園で収穫した野菜を使い、食事を美味しく、また楽しむ為に屋外での食事も取り入れている。	入居者の希望を取り入れ冷蔵庫の中を確認しその日の献立を決定している。旬の食材や家庭の味を大切に料理は器や盛り付けにも配慮し、カットが必用な方へも原型を確認してもらった後に目の前で食べやすくするなど工夫されている。手作り弁当を持参してのハイキングや誕生者の好みを取り入れた食事、又、入居者と管理する菜園(慈愛畑)の野菜利用など楽しい食支援である。訪問当日も入居者と一緒に腕をふるった餃子パーティで、職員も見守りを行いながら会話の弾む賑やかな食事時間であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表を作成、記入し、把握している。状態に応じて食事量や食事形態を工夫し、提供している。水分量が少ない方には、夜間を通して、こまめな水分補給を行い、水分確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを毎食後、行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、能力に応じた誘導、ケアを行っている。	自立の方の現状維持や、個々の排泄記録を行いパターンを把握し、見守り・表情から察知しさりげないトイレ誘導を行っている。会議で個々の状態に応じた排泄用品について話し合い、気持ちの良い排泄に繋げている。	トイレ内に置かれた個人使用の排泄容器については、他の入居者への配慮からもカバーをかけたり目につきにくい保管方法等検討いただきたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しつつ、飲食物の工夫や水分を多めに摂っていただいたりしている。入浴を勧め、腹部マッサージをしたり、運動の働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定を行なってはいるが、利用者様からの希望があれば、自由に入浴して頂いている。入浴時はゆとりを持ち、会話や、歌を楽しみながら入浴して頂いている。	午前・午後と一日を通して入居者の希望する時間に個浴でゆっくりとした入浴を支援している。入浴をしない時は足浴や清拭を行い清潔保持に努める事は、安眠支援にも繋がっている。入居者の楽しみとなるよう柚子等の季節風呂の実施や、今年度温泉センターの家族風呂での入浴支援を計画したが現在のところ実現には至っていない。	計画された温泉センターでの入浴支援の実現や、脱衣所に置かれた物品の収納方法を検討する事で更に気持ちの良い入浴支援に繋がる事が期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ、日中の休息を取り入れながら、昼夜逆転につながらないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。処方の変更があった場合には、連絡ノートを利用し伝えている。変更後の状態観察も行っており、次回を受診時、報告が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技を活かし、潜在的、残存的能力を引き出し、楽しみや生きがいを持つよう支援している。菜園での作業や同法人の「養護老人ホーム」との交流、外出等で気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候を考慮し、散歩や買い物など外出支援を行っている。個別的に日頃行けない様などころは、家族様に伝え、外出出来る様に、協力体制に努めている。	近隣には警察や郵便局・町の支所があり、入居者と一緒に散歩を兼ね法人広報誌を配布して回っている。又、菜園の管理や収穫、地域の福祉スポーツ大会・保育園の運動会への参加等、入居者の希望や体調に応じ支援している。バスハイクからの帰路で自宅周辺を通ったり、仏様参りを希望される本人に代わり家族へ代弁し実行に繋げるなど、家族の協力を得ながら個々の外出希望に応えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様所持とホーム管理がある。所持金を持っておられる利用者様は買い物同行時、支払いが出来るように支援し、ホーム管理の利用者様は職員が本人様に確認し、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の機会が多い為、電話の申し出は殆どない。申し出があった場合は職員が対応したり、ゆっくり会話が出来るよう配慮している。手紙のやり取りはないが現在、各自家族様宛の年賀状作成に取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を玄関やトイレに飾ったり、リビング内に観葉植物を置いたりし、落ち着いた空間作りに努めている。光、温度等はカーテンを利用しながら、調整を行っている。	玄関やホーム内は植物や飾りもの、地域の方により定期的な水彩画の提供や、日常的にホームを訪れ生け花の支援がされホーム内は季節感に溢れている。料理の音や匂いの伝わる対面式キッチンや、地域交流にも使用される高い天井で開放感のあるリビングスペース、皆の声が聞こえる所が安心感があると、昼寝にも利用される畳の間など入居者が寛げる空間が随所に設けられている。職員の声も一つの環境と捉え、穏やかで明るい語りを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が一人ひとり、思い思いの空間で過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方が持ちこみ、室内の配置や使い慣れた家具を持って来ていただいている。	家族の協力により馴染みの品々が持ち込まれた部屋は、洗面台や大きめのクロゼットが設置され、スッキリと整頓されている。朝の起床の声かけでカーテンを開け、使用した布団をたたむ事で、入居者のメリハリのある一日のスタートである。今後はベッドを使用しない時間帯のベッドカバーを準備し、必要時に再度ベッドメイキングを行う事で気持ち良い休憩や就寝に繋げたい意向である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を見極め、トイレや居室に名札を提げたり、身近な所に生活用品を置き、整理整頓が出来るよう、その方の能力が活かせるように支援している。		